

## 言い伝え

灰色に病んだ人は倒れてばらばらに砕け  
その破片は再び寄り集まって這いずり起き  
この情緒の国に片手をかける

その浜辺にはふかふかの白い雪

やつれた<sup>て</sup>掌はその中にさくりと沈む

そのあたたかい手ざわりに彼は微笑する

岸辺にふるえる枯れアシは彼を見守り

雪とともに波に<sup>し</sup>染み、溶解する彼を見守り

その<sup>くにびと</sup>国人のか細い調べを伸び上がってうたい

灰白の天に爪先立って線となる

この国に流れ着けば死ななければならぬ

青白く溶け去った後に残されたものは

砂の中の黒い石かとも見えるしじみ

溶け去った人はここに到り

ついに無の音楽と転生し

打ち寄せる波も、もはやその脇を戻り

ああ、その国は何処にあるか

かつて繁く出ていた渡しもさびれ

船頭は黙して私に語らず

波に尋ねてもただ私を囁むだけで・・・

ああ、かの街に生きられぬ者の行くところ

その国は何処にあるか

(1982.4.4)